

村井 勝彦 議員

小中学校の 施設整備の取り組み

問 法律の改正により、小中学校施設のバリアフリー化に向けて、施設整備計画の策定が必要となったが、本市の小中学校施設のバリアフリー化をどのように考えているか。

答 小中学校施設のバリアフリー化の推進に向けた施設整備計画の策定と整備方針については、袋井市教育施設等3Rプロジェクトで、建物の新築、建て替え、改修などの際に、段差の解消や手すりの設置などを検討するとう、基本的な方針を定めている。今後においては、袋井市教育施設等3Rプロジェクトに定めている20年間の整備方針について、毎年度行っている更新のタイミングで、バリアフリー化に係る整備内容、費用、時期などを盛り込んでいく。



屋外スロープ(周南中学校)

今後の農業施策の 在り方

問 今後の農業施策の方針をどのように考えているか。

答 農業従事者が減少する中で、地域の農業を維持、発展させるため、意欲ある担い手への農地の集積集約が重要で、引き続き推進するとともに、稼ぐ農業に取り組む生産者を支援し、優れた生産技術と経営能力を持つ生産性の高い農業経営体の育成に努めていく。



ホームページにて一般質問の録画映像を公開しています。QRコードを読み取ってご覧ください。※パケット通信料がかかります。

森杉 典子 議員

デジタルデバイド (情報格差) の解消

問 あらゆる人が、環境や能力にかかわらずICT機器を活用できるように、利用方法の助言や相談にのるデジタル活用支援員制度の導入は。

答 通信事業者と連携してスマートフォン講座を開催するなど、制度を積極的に活用し推進していく。

男女共同参画社会の 推進

問 女性の活躍を推進するアンコンシヤス・バイアス(無意識の偏見)への取り組みは。

答 具体例の紹介をはじめ、積極的に取り組んでいる事業所などの事例や、さまざまな分野における女性のロールモデルの情報提供などの啓発に努めることも、実践につなげていく。



防災ハンドブックを利用した授業

子どもの防災教育

問 小中学校に配布した防災ハンドブックの活用状況は。

答 避難訓練時や総合的な学習などの時間に活用し、自分の命を守る行動や、時と場に応じた適切な避難の仕方を自ら考え、行動する力を育むとともに、非常持ち出し品の確認などを行っている。

浅田 二郎 議員

生活困窮者に 寄り添った対応を

問 市役所しあわせ推進課と、久能にある社会福祉協議会の往復は酷である。「ワンストップ」での相談を。

答 それぞれの職員が移動し、同席するなど相談者に配慮した対応をしている。今後、オンラインなどでの相談も検討していく。

問 「生活保護の扶養照会は義務ではない」と国会で厚生労働大臣が答弁し、「生活保護は国民の権利」、「ためらわずにご相談を」とホームページで広報している。厚生労働省の立場に対応した方策は。

答 国の通知に基づいて柔軟に扶養照会していく。また、個々の相談にあった生活保護を含む各種制度の活用など、ケースワーカー職員が、一人一人に丁寧な対応をしていく。

県水との 契約水量こそ改善を

問 過大でスサンな計画、その計画に基づく4万1200立方メートルの契約が、水道事業経営の悪化の要因である。今、どの程度の水量が必要と考えているか。

答 将来の人口や水需要の減少を見込んだ上で、災害時の余裕分を含めた県水からの水需要を日量2万3900立方メートルと考えている。



観音山配水池